

# 東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2011 春号

## ◇◇ 記事一覧 ◇◇

震災復興に向けた学会の企画	1
2010年度学会賞候補者の推薦	1
2011年度研究助成の募集	1
常務理事会報告とお知らせ	2
2009年度学会賞	2
秋田大会のお知らせ	4
論文投稿の募集	4
学会事務局からお願い	4



## 震災復興に向けた学会の企画

このたび、東日本大震災による犠牲者の関係方々にお悔やみを申し上げます。今回の地震災害は、現時点で死者・行方不明者約2万4千人の犠牲者に加えて、津波による水田圃場の塩害や用排水施設等の損壊、原発事故による農地や農産物の放射能汚染、関連した風評被害など、農業面においても甚大な被害をもたらしました。被災地の中心が東北沿岸部であり、当学会の名に恥じず、農村・農業経済問題の分野において研究面から震災復興に貢献するのが学会の使命と考えます。そこで、先の常任理事会において、特別に「3.11大震災企画委員会」（仮称）を立ち上げることになりました。委員会の構成や活動内容等については、企画担当副会長の伊藤房雄教授（東北大）を中心に検討しているところです。そして、次回大会（秋田）の役員会や総会において、「特別企画」を提案する予定です。そのさいは、会員からのご意見とっさうのご協力をお願い致します。

会長 青柳 斉（新潟大学）

## 2010年度学会賞候補者の推薦

本学会では、東北農業の発展と農業経済学の発展を

期することを目的に、東北農業並びに農業経済学に関する顕著な業績に対し、東北農業経済学会賞を授与しています。2010年度の学会賞候補者の推薦を下記により受け付けます。一般会員からの推薦も受け付けることになっていきますので、積極的に推薦して下さるようお願いいたします。

1. 学会賞の種類：学術賞、奨励賞、実践賞  
 2. 候補者の要件：学会賞受賞者の資格は原則として東北農業経済学会の会員とする。また、実践賞の受賞者は普及指導員、営農指導員、農業者（農業法人を含む）、関係機関職員等東北農業の発展の貢献し得るすぐれた実践を行った者及びそれを記録した者とする。但し、奨励賞の受賞者は原則として40歳以下の会員とする。

3. 学術賞、奨励賞の対象とする研究業績は2008年4月～2011年3月末日までに刊行されたものとする。

4. 提出書類：

①推薦書（1部）：学会賞事務局にご連絡いただければ、用紙等をお送りいたします。また、学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/aest/index.html> から入手できます。

②関係資料（9部、コピー可）：推薦書で参照される著書や論文等の主要な業績

5. 提出先：

〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平4  
 東北農業研究センター生産基盤研究領域気付  
 学会賞選考委員会事務局 長谷川 啓哉 あて  
 TEL/FAX 019-643-3492  
 E-mail : hasecho@affrc.go.jp

6. 提出期限：2011年6月30日（木）

## 2011年度\*研究助成の募集

※新年度（2011年9月～）予算による事業のため

当学会では、若手研究者の育成を目的として研究助成事業を行って来ます。この度、2011年度の研究助成を募集します。応募要領は以下のとおりです。

1. 応募資格：2011年4月1日時点で本学会会員である大学院生（オーバードクターを含む）ならびに農

業改良普及指導員等

2. 助成額：1件当たり10万円程度、総額20万円以内で毎年2件程度

3. 応募方法：所定の申請書（学会賞事務局にご連絡いただくか、学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/aest/index.html> からダウンロードして下さい）にご記入の上、下記学会事務局に提出して下さい。

4. 提出先：

〒981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1  
東北大学大学院農学研究科資源環境経済学講座気付  
東北農業経済学会事務局 あて  
TEL・FAX：022-717-8910

Email：tohoku-agriecon@bios.tohoku.ac.jp

5. 提出期限：2011年7月31日（日）

急に検討することになりました。現地調査や科研費への申請などについても検討する予定です。

5. 学会賞担当理事（会長指名）の迫田登稔氏が異動。後任として長谷川啓哉氏にお願いすることになりました。

6. 青柳会長が日本農業経済学会大会・特別セッション「ポリバレンタ化する農業・農村経済学とその総合化」において「東北農業経済学会の現状と課題」と題して報告予定であるとの説明がありました。なお、同報告を文章化し、会誌に掲載する方向で、編集委員会において企画することになりました。

## 2009年度学会賞

### 常務理事会の報告とお知らせ

第2回常務理事会が開催されました（東日本大震災の影響により2ヶ月近く遅れての開催）。

日時：2011年5月14日（土）

場所：リッチモンドホテルプレミア仙台駅前

出席者：青柳齊、伊藤房雄、川島滋和、紺屋直樹、渋谷長生、関野幸二、中村勝則、横山英信（敬称略、50音順）

1. 秋田大会の準備状況について報告がありました（詳しくは別添秋田大会案内を御覧ください）。
2. 名簿作成について協議を行いました。今年中に名簿をリニューアルしますので、その際にご協力賜りますようお願いいたします。
3. 今年度（2010年9月～）における会員数の報告がありました。以下に示します（発生順、敬称略）
  - (ア) 入会者：金成学（山形）、金紅欄（山形）、滝口沙也加（山形）、渡邊みどり（宮城）、薄真昭（福島）、新田義修（岩手）、家串哲生（山形）、秋庭透（山形）、成田拓未（青森）、相馬裕司（新潟）、斯欽孟和（宮城）、韓波（宮城）
  - (イ) 退会者：栗原るみ（福島、ご逝去）、築井仁（新潟）、西山泰男（福島）、鎌田清三（宮城）、長谷川篤夫（山形）、土井時久（北海道）、藤田貞子（秋田）、菅原美代子（宮城）、鈴木直建（秋田）
  - (ウ) 2011年5月25日現在の会員数：個人会員249名、団体会員3団体、名誉会員11名
4. 東日本大震災関連企画について協議を行いました。企画担当理事を中心に、「3.11大震災企画委員会」（仮称）を立上げ、活動内容の具体策を早

2009年度学会賞（木下賞）受賞者はすでに前号でお知らせしておりますが、その選考結果および受賞者のコメントを以下に掲載します。

1. 学術賞

◆受賞者：齋藤仁蔵（近畿中国四国農業研究センター四国研究センター）

◆研究業績：著書「生産者の米マーケティング戦略と管理の特質」、農林統計協会（2008）

◆本書は、これまで十分な展開がなされてこなかった農業経営のマーケティング研究を推進するために、分析方法や分析視点等、分析のための基本的枠組みを中小企業論を援用して構築し、そのマーケティング管理論を自ら米を販売する生産者が増大している良食味米の産地である北陸地域の事例に適用し、そのマーケティング戦略や管理の特質を解明したものである。

本業績の特徴として、①生産者の米マーケティング戦略や管理の特質が、経営規模の零細性や米の商品特性といった農業の特質によって特徴づけられることを解明し、農業経営のマーケティング活動を対象とした研究において、理論的実証的研究の新たな突破口を開いたこと、②付加価値を付けた米の生産や多様な販売チャネルでの直接販売に取り組む農業者や農業法人等の経営体がマーケットインの視点に立ち、どのようにして、生産から商品管理、販売まで実践すべきかについて詳細な事例分析に基づき、解明・提案したものであり、経営者のみならず、指導者にとっても有益な示唆を与えるものであることなどが指摘できる。

以上のように、生産者の米マーケティングの多様な展開について、様々な角度からの実態分析を試みて、いくつかの新知見を出しており、農業経営研究に対する学術的貢献が大きいと評価されるとともに、その研究結果は今後の農業経営の展開に対して有益な示唆

を与えるものと認めた。

## 2. 奨励賞

◆受賞者：小山良太（福島大学）

◆研究業績：論文「農村との共生・連携—都市と農村を繋ぐネットワーク型地域づくり」、鈴木浩編著『地域計画の射程』八潮社（2010）ほか5編

◆氏の業績は、北海道時代の研究蓄積をもとに、東北の地域農業の諸問題について、地域産業振興、農業団体（農協）の機能分析、地域農業組織化など多様な切り口から分析、検討した研究業績である。

その特徴として、①中山間地域の地域産業振興と地域づくりに関しては、地産地消、6次産業化という運動理念を地域産業・経済学の分析フレームである移入代替、域際収支、地域内経済循環という視点を取り入れ、ネットワーク型地域づくりの方法論を論じていること、②米麦農協的な事業構造を有する東北の農協に関して、広域合併後の本店・支店・営農センターの機能分担や事業組織再編と多様な組合員の意思反映ルートに関する検討を行い、地域組織化とマーケティング型事業の両立に関する研究を行なっていること、③地域組織化については、東北型の集落営農＝地域営農システムの構築を課題とし、福島県を対象として、一括利用権設定と集団的土地利用のあり方、そこでの合意形成過程、担い手の存立形態に関する研究を行なっていることなどが指摘できる。

以上のように、幅広い観点から研究を進めており、ここ2、3年での多数の研究蓄積は、いずれ、まとまった研究成果への発展を期待させるものであり、今後一層の研究発展を期待できることから、東北農業経済学会奨励賞にふさわしいと認めた。

## 3. 学会誌賞

◆受賞者：菅井健光（東北大学大学院農学研究科）

◆受賞論文：「現行農業信用補完制度の性格と限界—損失補償から債務保証への移行の背景—」（第27巻第2号1-13）

◆本論文は支払財源確保が懸念される現行農業信用補完制度について、制度の移行の背景と、制度そのものの性格と限界を分析したものである。①当初損失補償として始まった制度は農業基本法下で大規模に導入された近代化資金に対応する債務保証が求められ、保証リスク分散等を図る保証保険制度に変更されたが、それでも基金運用益収入が支払財源の確保を左右するという硬直的な財務構造などで制度に限界があること、②さらに保証対象者である農業者の性格の変化すなわち多様化が大数の法則を前提とした収支相等の原則を適用せざるを得ない状況に移行したた

めに制度の問題がより大きくなったことを明らかにし、保険理論を踏まえた新しい保証制度論の検討が必要であると指摘した。

以上の点から、編集委員会では新たな知見を有し、オリジナリティが高く、論文として完成度も高いと評価し、学会誌賞にふさわしいと認めた。

◆受賞者：磯島昭代（東北農業研究センター）

◆受賞論文：「自家消費用及び贈答用リンゴに対する消費者ニーズの解明—評価グリッド法による接近—」（第27巻第2号33-40）

◆本論文は定性的調査手法である評価グリッド法を適用して、自家消費用および贈答用それぞれについてリンゴに対する評価構造を抽出し、消費者ニーズの解明を試みたものである。①自家消費用リンゴに対しては「気軽に色々食べたい」というニーズがあり季節感のある品種の品揃えや商品の説明及び購入しやすい価格の設定などが重要であること、②贈答用リンゴに対しては「相手に喜んでもらいたい」というニーズがあり、食べきりやすい量での提供やセット内容の工夫、話題性のある商品づくりとその特徴を積極的にアピールすることが重要であることを明らかにした。なお、評価グリッド法は臨床心理学の分野で治療の目的に開発された面接調査手法をベースに改良・発展させた個別インタビュー手法で、農業分野への適用は極めて先進的である。

以上の点から、編集委員会では新たな知見を有し、オリジナリティが高く、論文として完成度も高いと評価し、学会誌賞にふさわしいと認めた。

## 4. 受賞のこぼ

◆学術賞 齋藤仁蔵（近畿中国四国農業研究センター四国研究センター）

この度は、木下賞を賜り、光栄に存じ上げます。受賞対象となった拙著「生産者の米マーケティング戦略と管理の特質」が出版されるまで、様々な方に御指導、御支援いただきましたこと、あらためて感謝申し上げます。この研究に着手した契機は、平成6年に北陸農試に異動になり、そこで自ら生産した米を独自販売する生産者のたくましい姿を目の当たりにしたことです。農業経営の展開が新しいステージに移ったことを感じ、その活動を対象とした研究に多くの時間を費やしましたが、一区切りついた感じです。現在は、もっぱらカンキツ経営を対象に研究を進めていますが、時々稲作や米の話題を耳にすると懐かしくなります。東北からかなり遠くなりましたが、今後もよろしくお願ひします。

◆奨励賞 小山良太（福島大学）

福島大学に赴任して6年が経ちました。北海道時代は大規模専業地帯の農業とそこでの農協（専門・総合）のマネジメント機能について研究してきました。産業振興＝地域振興というある意味、単線的な振興モデルを描いてきました。府県農業については文献等でその違いを認めておりましたが、実際の東北農業・農村・農協はより複雑で、あらためて農村地域社会という視点の重要性を認識いたしました。この点で、地域政策の策定、地域づくり活動など福島大学での取り組みと農業振興計画や農協組織・事業問題との結節点を見出すことが出来き、今回の受賞対象論文となった「農村との共生・連携-都市と農村を繋ぐネットワーク型地域づくり-」（『地域計画の射程』八朔社、2010年）や「組合員と組織活動」（『協同組合としての農協』筑波書房、2009年）に繋がったと考えております。今後は、本賞の受賞を励みに、東北農業を対象に地域づくりと農業振興の経済分析を手がけていきたいと考えています。

◆学会誌賞 菅井健光（東北大学大学院農学研究科）

私は、30年余農業の信用補完制度の仕事に携わって参りました。そのことから、同制度を持続的に発展させるための基礎的条件を研究しております。投稿した論文では、この制度の財務構造が、基金中心のため制度として限界があることを指摘させて頂きました。この投稿論文により、思いも掛けず学会誌賞を受賞しましたが、身に余る光栄であり、感謝申し上げます。また、この受賞は、東北大学大学院農学研究科の両角和夫教授および宮城大学食産業学部の川島滋和准教授のご指導の賜物であり、厚くお礼を申し上げます。この受賞を契機に、引き続き研究を続けて参りたいと思いますので、よろしくご指導をお願いいたします。

◆学会誌賞 磯島昭代（東北農業研究センター）

このたびは拙稿「自家消費用および贈答用リンゴに対する消費者ニーズの解明－評価グリッド法による接近－」に対し、東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）をいただき、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。本稿では定性的調査手法を用いてリンゴに対する消費者ニーズの解明を試み、自家消費用と贈答用とは異なるニーズがあることを示しました。今後は果物贈答という視点で更に研究を発展させていきたいと考えます。また、長く東北の地に身を置きながら、これまで東北農業経済学会に十分な貢献をしてこなかったことを反省し、今後は微力ではありますが学会活動に励みたいと考えております。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 秋田大会のお知らせ

今年度の研究大会は秋田県で行われます（別紙大会案内をご覧ください）。多数のご参加をお待ち申し上げます。また、個別報告にもふるってご参加下さるようお願い申し上げます。

## 論文投稿の募集

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。原稿は和文・英文どちらでも結構です。詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』  
編集担当理事 横山英信  
〒020-8555 岩手県盛岡市上田3丁目18-34  
岩手大学人文社会科学部  
Tel/Fax : 019-621-6777  
E-mail : yokoyama@iwate-u.ac.jp

## 学会事務局からお願い

会費を滞納していませんか？随時受け付けておりますので、未納されている方はお支払い願います。なお、2011年度（2011年9月～12年8月）の会費の振込用紙は11月頃にお届けする予定です。



### 編集後記

◆東日本大震災による社会的損失は計り知れないものがあります。亡くなられた方々の無念を思うと胸がつまります。ご冥福をお祈り申し上げます。そして被災された方々には心からお見舞い申し上げます◆震災を通じ、東北地域で育った人間として、日本経済に対する東北地域の貢献の大きさを誇らしく思う気持ち少々、しかしそれ以上に、そのためにどれだけ犠牲になってきたか（なりつづけなければならないのか）、悔しさが滲んできます。◆今年の大会は秋田です。多くの方々のご参加をお待ちしております。（N）

[次号 2011 年秋号は 11 月頃発行予定です]